

日本と中国

② 「回郷見聞」

8億人が大移動する中国の「春運（春節期の里帰り）」が終わった。ブログや微博流行りの時代になったせいで、里帰りした都市生活者たちは、郷里で見聞きしたこと（「回郷見聞」）をネットに大量に書き込んでいる。

中国は広い国だ。地方で何が起きているかは、中央にいても分からない。地方は足許で起きていることは分かるが、他の地方の様子はやはり分からない。

そういう意味で、中国各地から寄せられた大量の「回郷見聞」を縦覧すると、客観性・正確性に欠ける憾（うら）みはあるが、中国農村部の最新動向がリアルに伝わってきて興味深い。

今年の「回郷見聞」をあれこれ拾い読みして、中国農村部には、かなり共通した大変化が起きていると感じた。

生活水準の向上

ほとんどの人が郷里（農村のほか「鎮」など小都市も含む）の収入レベルが急速に上がっていると言っている。

「普通のブルーワーカーでも月給3千円くらい」「技能者（例えば、瓦工、内装工）なら5～7千円」「食堂や商店を営む自営業者は年間数十万円」等々。

収入アップをなにより証明するのは、マイカー（といっても、価格10万円までの小型車）の普及であり、田舎で道路渋滞が起きていたという。

これに伴って、「大型スーパーが建設中」「ファストフード店が開店した」

等々消費生活の高級化を指摘した人も多かった。同時に、「物価がビックリするほど上がっている」「インフレ傾向は田舎でも顕著だ」と言う人も。

農村社会保障制度の普及

生活水準向上の一つの理由は、農村にも社会保障制度が普及し始めたことだ。

「老親が数万円の保険料を予納した結果、毎月数百円の養老金を受け取れるようになった（5、6年でモトが取れる）」「医療保険制度が適用されるようになって、医療支出の7割方は返ってくるようになった」等々。

帰郷した都市生活者たちにとって、農村部の生活向上はやや意外だったようだ。

建設ブーム

何が農村の生活水準を向上させているのか。ほとんどの人が指摘するのは、建設ブームだ。地区級、県級の市区だけでなく、鎮部でも大量のマンションが建設されてい

たと。

建設ブームは農地収用を伴うが、これも農村部収入アップの大きな一因らしい。補償水準の大幅アップが農村・鎮にも及んできたとみえる。同時に、『「農地集約」政策が大々的に進め

られ、アパートに転居する農民も多い」とも。

財政移転の効果

学のある人は、農村部の経済浮揚の原因として、中央→地方、東部→中西部への財政移転が大幅に増加していることを挙げていた。曰く「中西部の県級市財政の7割は財政移転に頼っている」と。

農村から人が消えていく

変化は収入水準の向上だけではない。「鎮区のアパートに転居した人が増えた」「人がおらず、正月のムラの賑わいが消えた」「『農地流動化』で農地を企業に賃貸して耕作を止めた農民が多い」「賭け事と宗教が大流行」等々。中国農村生活には大きな変化が起きているようだ。

感想

今年の「回郷見聞」は、総じて郷里の生活水準向上を肯定的に受け止めている。ふだん関心が沿海大都市に集中しがちな私は、蒙（ま）を啓（ひら）かれる思いで読んだ。

しかし、喜んでばかりもいられない。収入アップの別の背景は少子高齢化だ。「田舎で月3～5千円の月給が取れるなら、都市で苦勞している自分の生活は何なのか」と複雑な思いを抱いて帰った人も多い。今後、都市部の人手不足と賃金上昇はさらに激化するだろう。

建設ブームと財政移転に頼る地方景気の持続可能性はもっと不安だ。とくに、農村・鎮部でも、農民の大量流入を当て込んだ大都市でも一斉に「ニュータウン建設」、需要はダブルカウントされていないか。俄かブームになりつつある「都市化」は、新たな重複建設の種を蒔（ま）いているのかもしれない。（津上工作室 代表・津上俊哉）

向上している農村の生活水準